



やまゆり

学校だより

令和6年3月6日
93号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「**地域連携**」

教育委員会や産業振興課さんのご努力による重機の除雪

昨日からの雪で、登下校の歩道や体育館前の広場が真っ白になってしまいました。多くの学校では教職員やPTA役員さん、地域の方々による除雪作業によって生徒の安全を確保しています。

しかし、道志村では積雪後もいち早く除雪をして下さり、教育活動が保証されています。小規模の学校ではありますが、いかに小中学校の教育活動を大切にしているかが分かります。

特に、教育委員会や産業振興課さんによるご努力や、建設業者さんのご理解とご協力があつてこそその恩恵だと思います。今日の学びにも、村の方々の大きな努力と期待がかかっていることを自覚し、より良い教育活動を展開したいと思います。

関係の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

朝7:10分には、このように除雪作業をして下さいました。運転手さんも道志中の先輩です。



児童・生徒の歩道もきれいに除雪されています。玄関前まで除雪して下さいました。



学校教育重点目標 「生徒の学びを保証する連携」

道志の保育・小中無償化 学用品、校外活動も村負担

本日、3月6日の山梨日日新聞に、上記の見出しで教育費の無償化について報道がありました。教育委員会の施策として、「教育の無償化」に関する記事の内容を紹介致します。

◎来年度(令和6年4月)から実施。未満児なども含め、所得制限を設けずに一律に対応。

※保育所の未満児を含めた29名、小中学校の77名が対象

「小中学校関係」

- 村内の保育所と小中学校に通う子どもの学用品や学校外活動の費用を全額村負担。
- すでに実施している給食・副食費は無償の継続。
- 小中学校の絵の具やリコーダー等の学用品、毎月積み立てている修学旅行費の負担。
- 現在学校で積み立てている費用は、返金する。
- 中学校の入学時の祝い金は5万円から10万円に増額。※小学校の祝い金3万円は据え置き
※小中学校の体操服や靴・制服などは対象外。上記の祝い金を活用してもらおう。

「保育所関係」

- 絵本代や園服は新たに村負担。
- 保育所を利用せず、在宅で未満児を養育している家庭に月1万円を支給。
- 満2歳までの全ての乳児がいる家庭を対象に月5千円分のおむつなどを配付。

上記の一連の事業費計 7,174万円

上記の記事に関するお問い合わせは、教育委員会にお願い致します。

学校教育重点目標「確かな学力の育成」

高校入学試験問題の分析と傾向

昨日行われた、「高校入学試験問題」の分析と傾向について紹介します。次年度の対策に生かしましょう。学校としても、今後の指導に生かします。

県教委の方針を「赤字」で表現

- ① **中学校の学習指導要領を踏まえた内容**
- ② **「実社会における課題解決力の育成につながるよう、社会の動きや身近な現象との関連付けを図っている」**

考察

- ① 学習指導要領とは、「学力」を具体的に示した「指導内容と指導事項」のことです。本校では3観点の学力を、単元の学習活動で達成するように単元のはじめにガイダンスを行い、何が、どの程度出来たらA・B・C評価かを生徒と共有して学習しています。
また、学習目標を単元で達成するために「個別最適な計画」を生徒自らが立て、「協働的な学習」も通して目標達成を図っています。

※全国的に中学校では一斉学習が基本です。本校の実践は、県内・全国の中学校の中でも最先端の学習方法として評価されています。

- ② 先行き不透明な時代を生きる力を育成するために、実社会における課題解決力の育成を重点にしています。また、学校での学びを、社会の出来事や現象との関連で考えて解答する工夫をしていると考えられます。

↓

- ② 学習に一番影響のある、「学びの主体性向上」のために、身近な社会生活との関連付けを方針としていると考えられます。また、学校の学習は役に立たないのではなく、社会問題の解決の基盤として小中学校の学習が役だつことを実感させようとしていると思われます。
- ② 各教科の教科書の教材は、全てが上記の方針のように設定されていない。身近な問題と関連させるには学習指導に工夫が必要で、そのためには教材研究に時間が必要である。
- ② 「関連付け」ということばは重要です。学んだ知識や技能をそのまま答えさせるのではなく、「思考・判断」して、「表現」させるために関連付けを意図していると思います。

- ① **平均点は50～60点を想定している。**
- ② **難易度が高い問題への解答時間を確保するために、選択問題・記述問題・計算問題等のバランスを重視している。**

考察

- ① 最初から、50点～60点を想定して、入試問題を作成しているそうです。このことは、入学試験を受ける生徒の半数は解けない問題が出題されていることを意味します。

対策としては、②の「解答時間の確保」が参考になると思います。

個人的な意見ではありますが、作問の考え方として、県立高校の入試問題は、難易度を高くした競争試験ではなく、「学習指導要領の内容を理解しているかを問う問題」であると私は考えます。学習指導要領を踏まえた問題作成をするのであれば、生徒が出来ないと想定して作問するのでは無く、できると想定して問題作成づくりをすべきではないでしょうか。結果として、できない問題があり、平均点が下がったとしてもできて欲しいと願って作問するのが作問者の立場ではないでしょうか。最初から、50点～60点を想定して、入試問題を作成することには疑問があります。

②解答時間の確保

「解答時間の確保」が何を意味しているかという、ハイスピードで解かなければならない問題量がある、または、難易度の高い問題があるということです。全国の公立中学校では、毎日の学習ではハイスピードで解かなければならない学習をしていない傾向があります。

今後の学習方法で以下のことを考慮する必要があります。

1) 時間を決めて問題を解く練習をする。例 国語の240字作文は10分以内

※生徒の特性によって、じっくり時間をかけ、確実に解く生徒。高速でも解ける生徒等があります。自分の特性を理解し、自分なりの学習方法を身に付けることが大切です。

2) 問題の全体・個別の大問の中から、易しい問題、時間をかければ何とか解けそうな問題、解答が難しい問題を見分ける力を付ける。

3) 易しく解ける問題を見つけたら、「確実に、ミスせず」解く。

4) 「条件を守って解答」する。例 国語作文 2段落構成、はじめに事実・後段に意見

5) 毎日の学習による「調査書の評価」と入試や到達度検査等の「ペーパーテスト」では、能力の測定や対応の仕方が違うことを理解し、その対応をしていくことが大切。

例 日常の学習では、「時間をかけてじっくり取り組むことができます。」また、知識や技能が苦手でも、表現力やパフォーマンス能力が高いと高評価を出せる可能性があります。

各教科の主な出題内容

国語 話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを総合的に図る問題を出題。資料が複数あり、双方を関連付けて解く問題を出題。

社会 地理・歴史・公民の3分野から出題。山梨に関する題材、時事的問題を出題。

数学 基礎的な概念・原理・法則などの理解、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を測る問題。数学を活用し事象を論理的に考察する力や数量や図形の性質を出題

理科 物理・化学・生物・地学の各分野から総合的に出題。観察・実験を重視し、日常生活との関連や基礎的・基本的事項、実験結果や学習内容を活用する問題を出題。

英語 基本的な英語力を問う問題を出題しながら、思考力・判断力・表現力を測る出題。

長文を読んで内容を把握し、既習の知識を活用して表現する問題や、要点を捉える問題を出題。

